

Ⅲ 平成17年の結果

1 がん死亡数

(1) 部位別（上皮内がんを除く）

がんが原死因であった死亡について部位別に死亡数をみると、男では肺がんが最も多く、次いで肝がん、胃がんの順に多かった。女では胃がん、肝がん、肺がんがほぼ同数で、肺がん、胃がん、肝がんの順に多かった（図3-1、表9参照）。

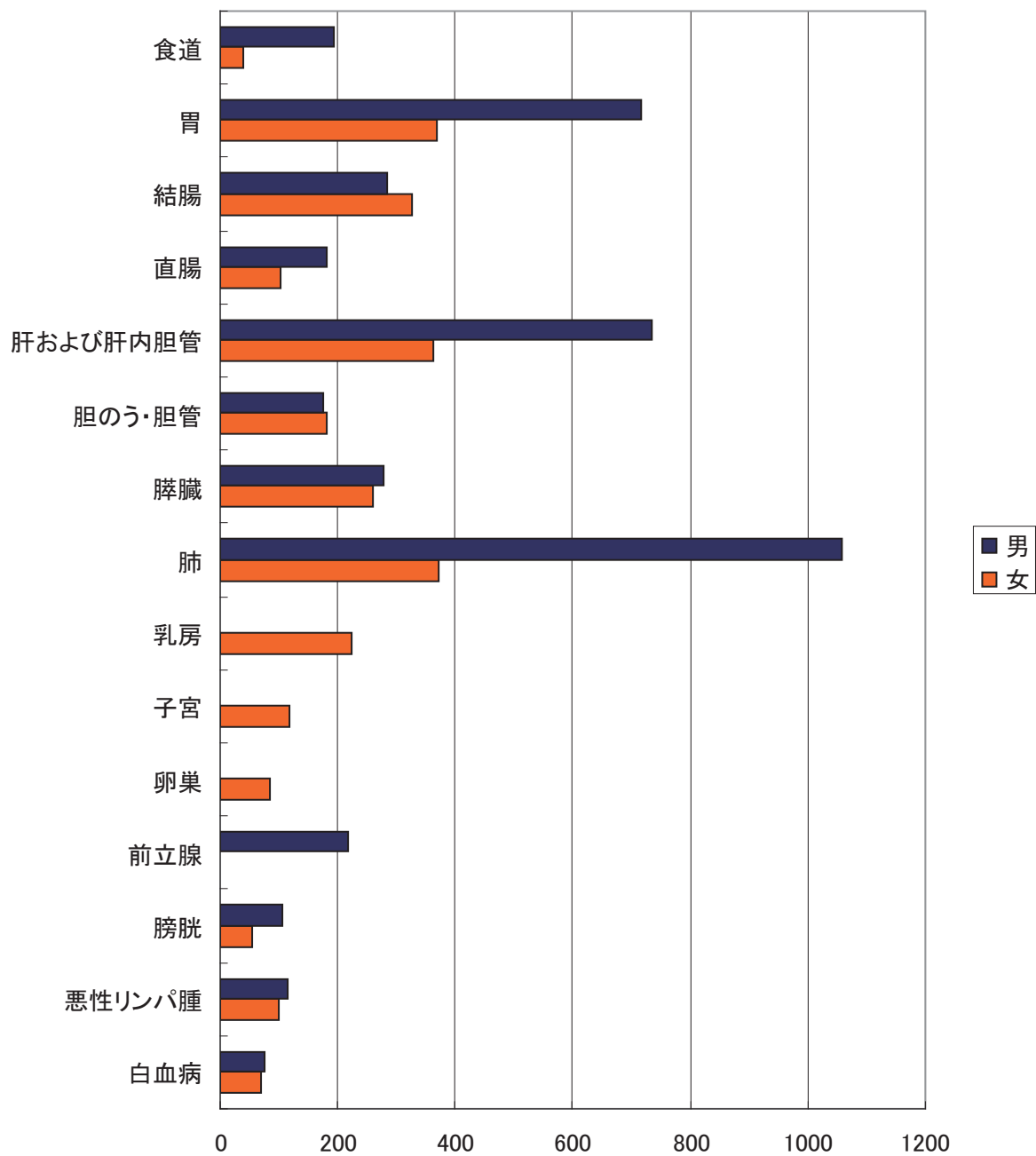


図3-1 部位別がん死亡数

(2) 全国との比較（上皮内がんを除く）

全国を基準とする標準化死亡比は全部位で、男が1.00、女が0.95であった。死亡数の多い部位のうち、男女とも肝がんの標準化死亡比が高かった。（図3-2、表A参照）

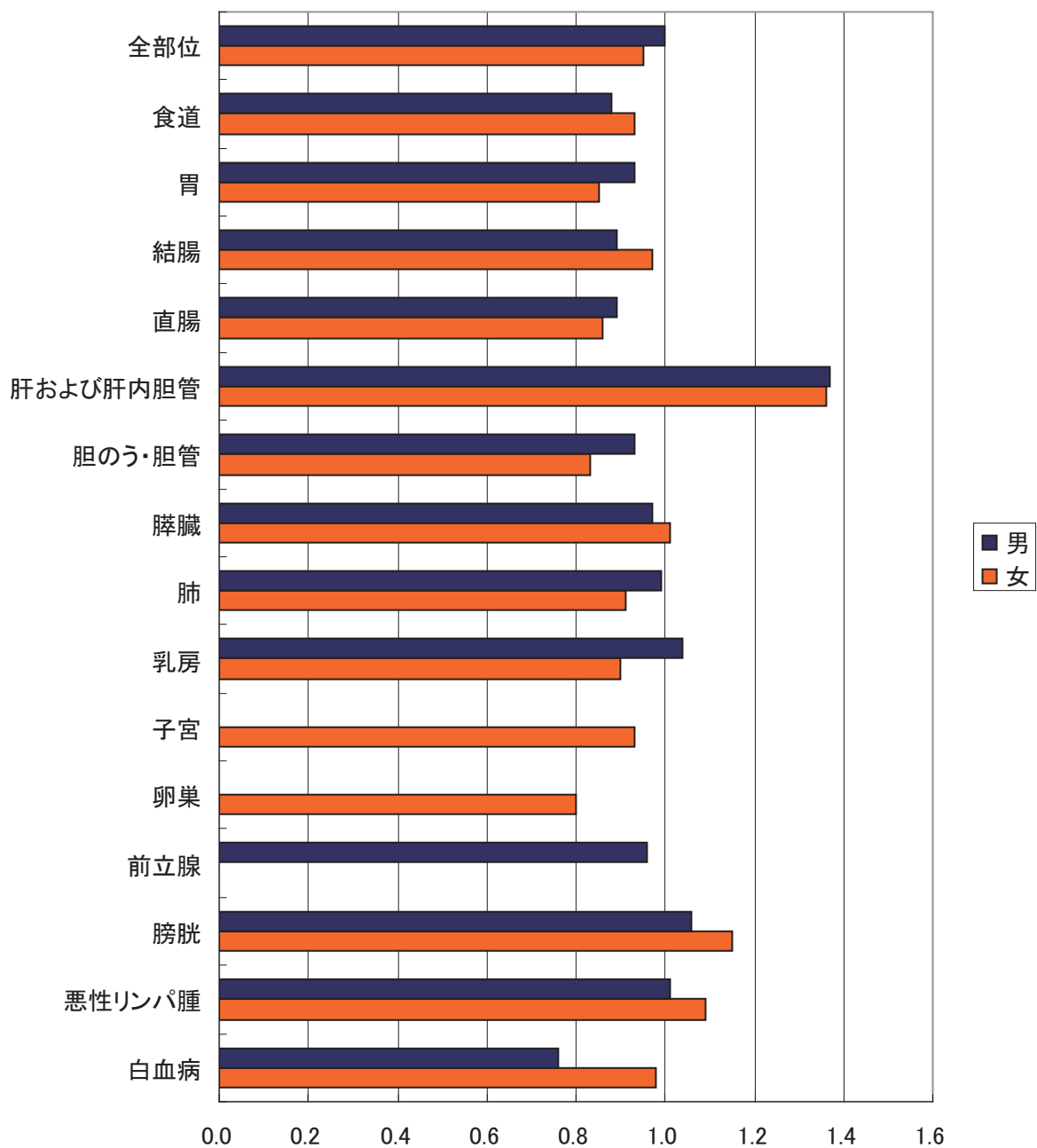


図3-2 部位別標準化死亡比（全国を基準）

2 がん罹患数

(1) 部位別がん罹患数（上皮内がんを除く）

がん罹患数を部位別にみると、男では胃がんが最も多く、次いで肺がん、前立腺がんの順に多かった。女では乳がんが最も多く、次いで胃がん、結腸がんの順に多かった（図3-3、表1-A参照）。

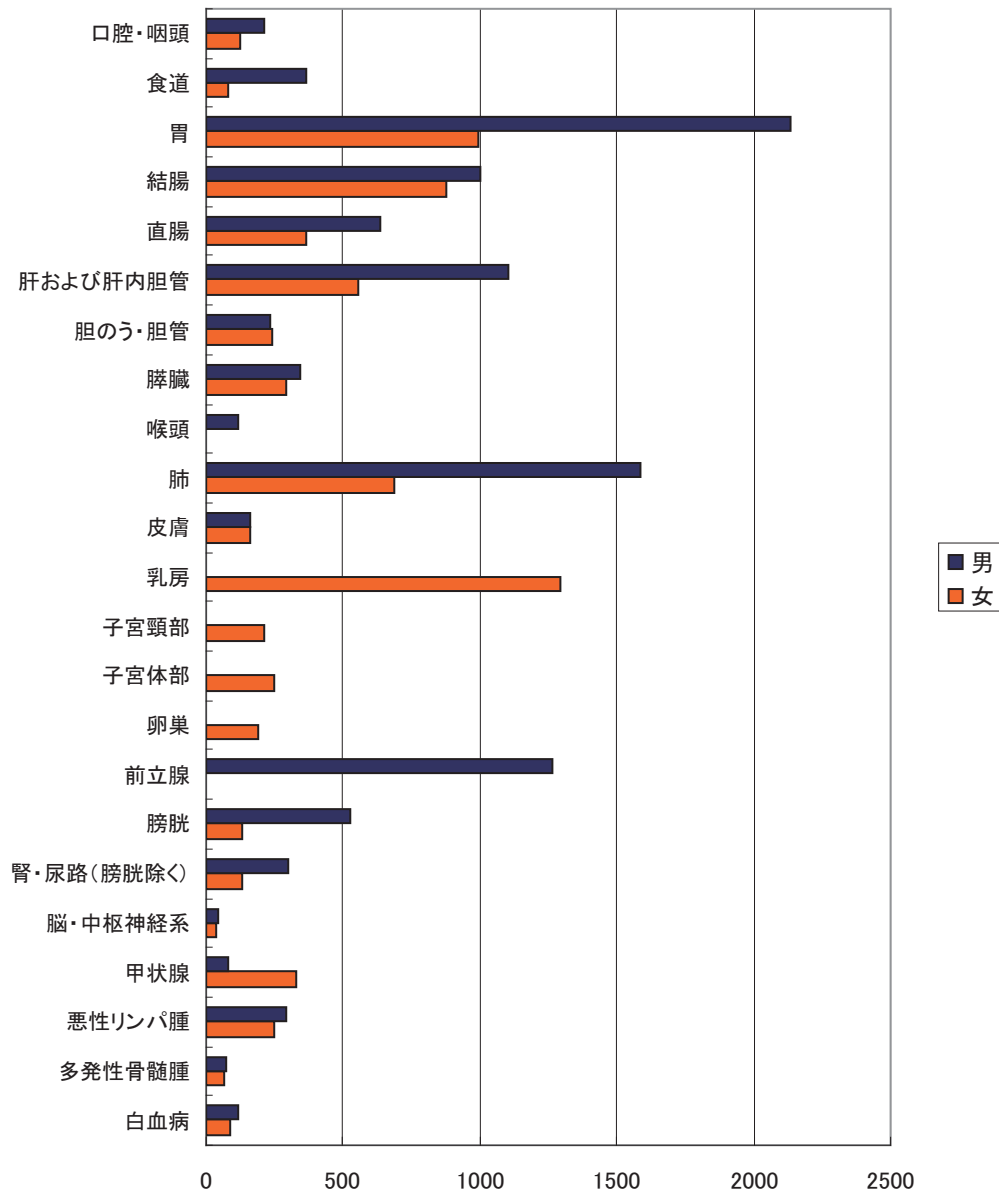


図3-3 部位別がん罹患数

(2) 年齢階級別がん罹患率（上皮内がんを除く）

全部位について性別年齢階級別にかん罹患率をみると、35～39歳、40～44歳、45～49歳の年齢階級では男より女の罹患率が高く、それ以上の年齢階級では女より男の罹患率が約2倍高かった（図3-4、表3-A参照）。

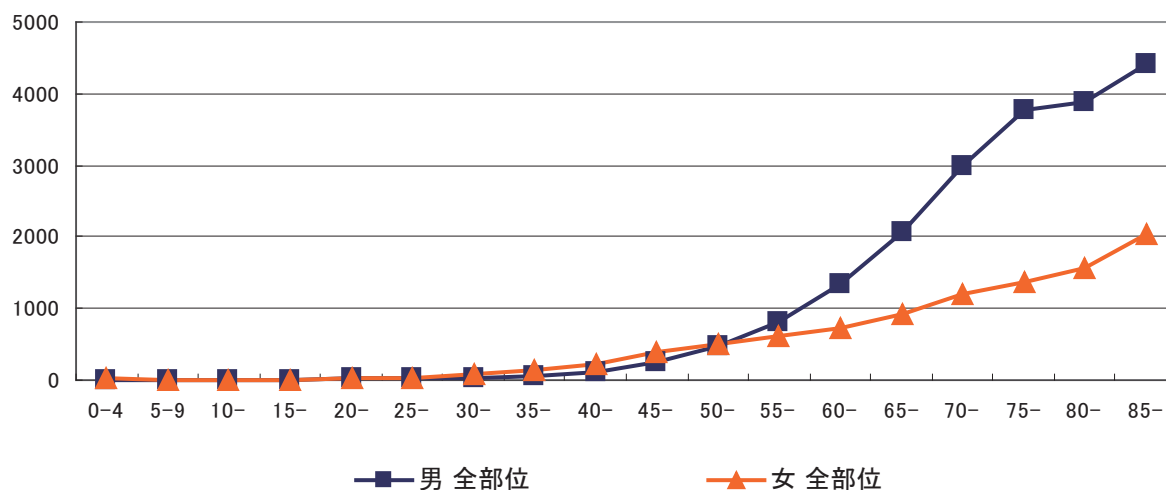


図3-4 年齢階級別がん罹患率（人口10万対）

(3) 発見経緯

健康増進法に基づく健康増進事業としてがん検診が実施されている部位を中心に、発見経緯をみた。判明者中では乳がん、子宮頸がん、がん検診の割合が高かったが、判明者の割合が低いので、結果の解釈には注意が必要である（図3-5・図3-6）。

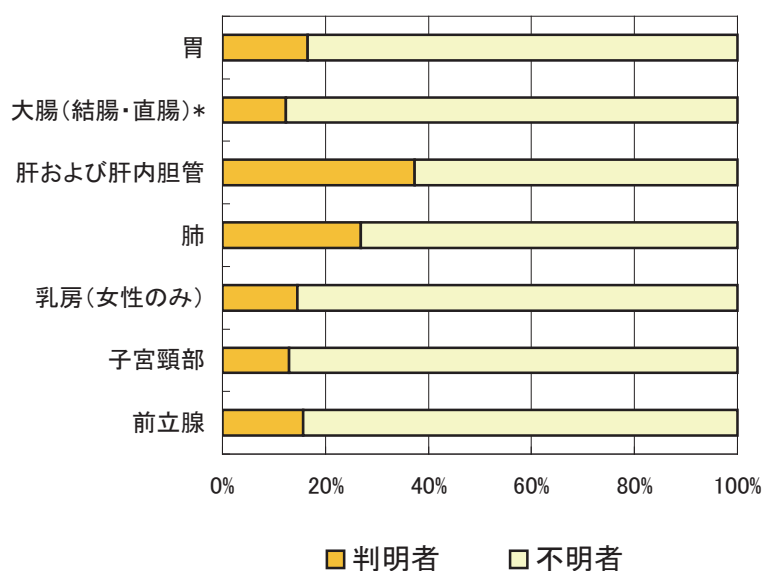


図3-5 部位別発見経緯判明者の割合（対象はDCOを除く）
 （*のある部位は上皮内がんを含む表4-Bから
 その他の部位は上皮内がんを含まない表4-Aから作図した。）

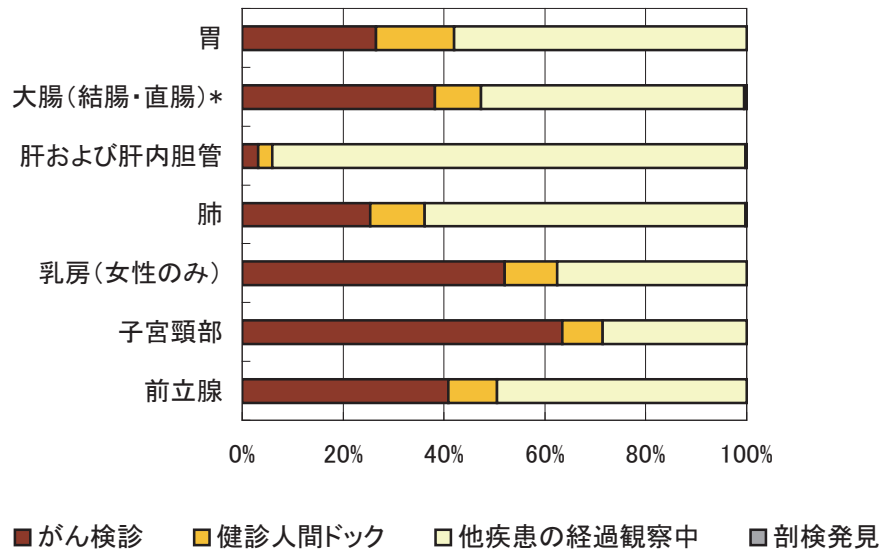


図3-6 部位別発見経緯 (DCOを除く判明者中の分布)
 —発見経緯判明者の割合が低く、結果の解釈には注意が必要である—
 (*のある部位は上皮内がんを含む表4-Bから
 (その他の部位は上皮内がんを含まない表4-Aから作図した。))

(4) 臨床進行度

部位別に臨床進行度をみると全体に不明者の割合が高かったが、限局の割合が肝臓や子宮体部で高く、膵臓で低かった（図3-7）。

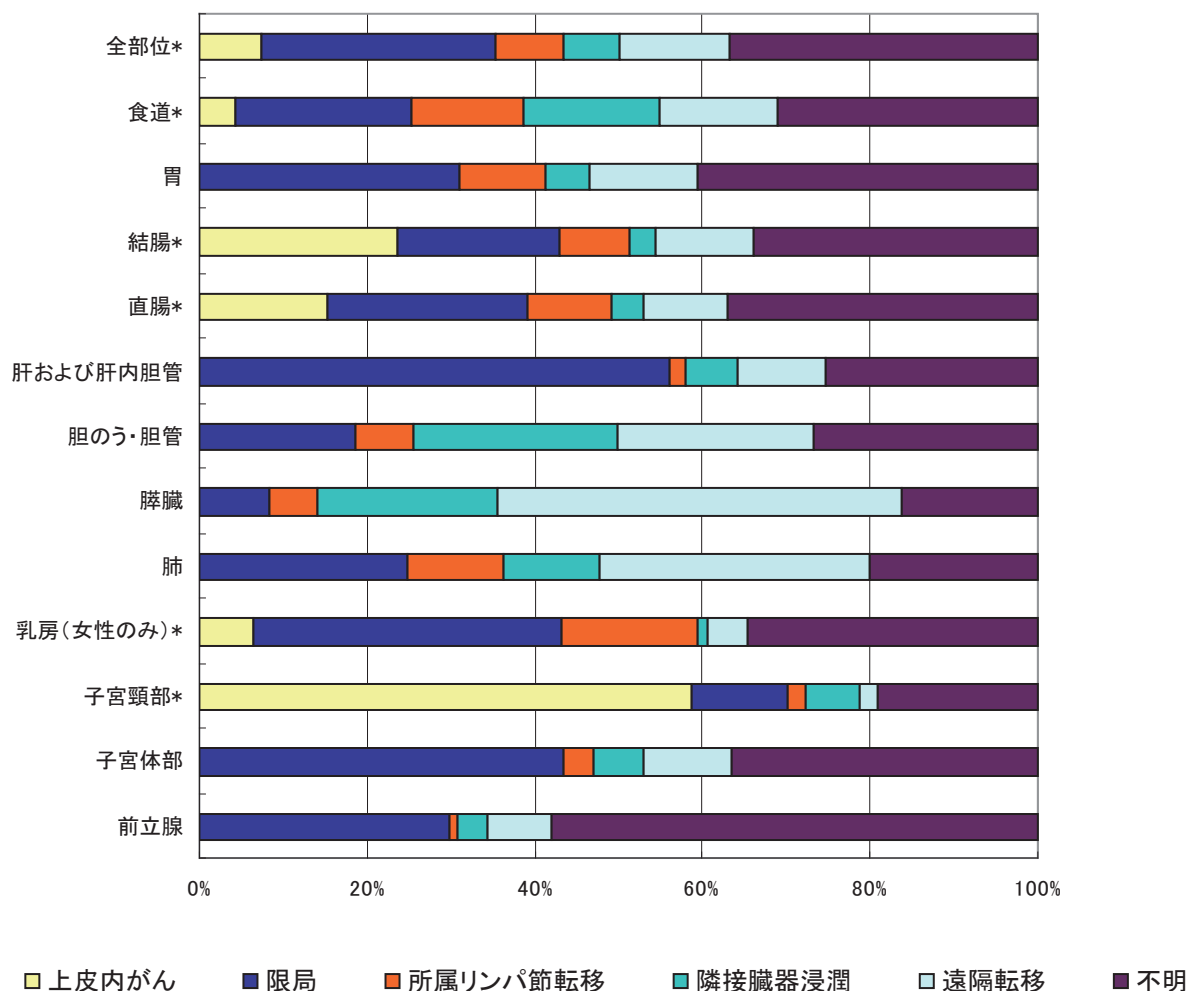


図3-7 部位別臨床進行度（対象はDCOを除く）

（*のある部位は上皮内がんを含む表5-Bから
その他の部位は上皮内がんを含まない表5-Aから作図した。）

（胃の限局にはmがんを含む。結腸・直腸の上皮内はmがんまでを指す。

子宮頸部の上皮内はCIN3を含む。）

—全体として臨床進行度不明者が40%近くあり、結果の解釈には注意が必要である—

(5) 受療割合

初回治療の方法について、外科的、体腔鏡的、内視鏡的手術を「切除」、化学療法、免疫療法、内分泌療法を「薬剤」、特異療法なしまたは治療方法不明を「その他・不明」として部位別にみると、乳房で切除の割合が高く、口腔・咽頭、食道（上皮内がんを含む）で放射線療法の割合が高かった（図3-8）。

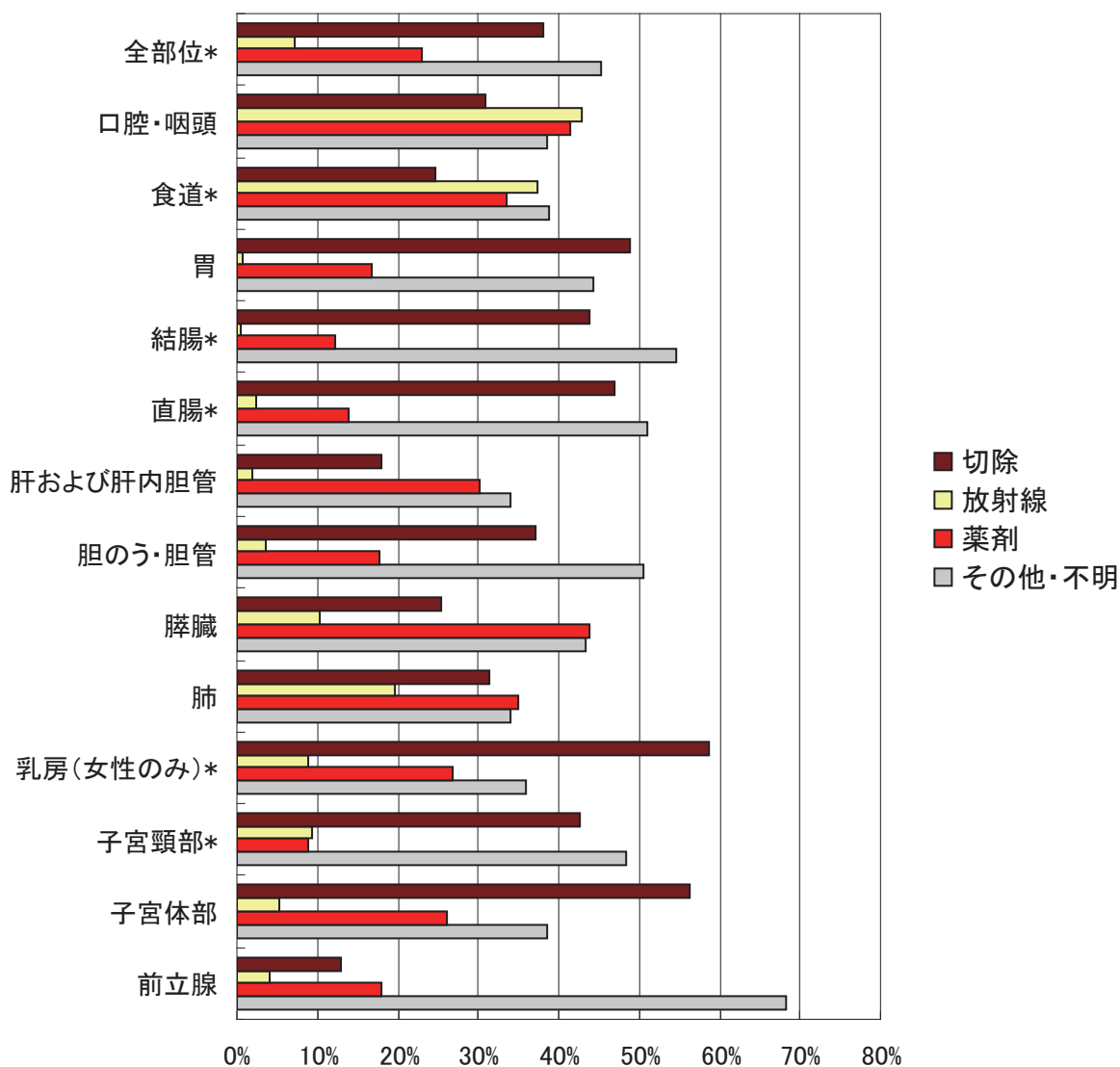


図3-8 部位別受療割合

（*のある部位は上皮内がんを含む表6-Bから
 （その他の部位は上皮内がんを含まない表6-Aから作図した。）
 —治療方法不明の割合が高く、結果の解釈には注意が必要である—